

洋書輸入協会会報

VOL. 20
NO. 5

(通巻229号) 昭和61年 5 月

理事会報告

関西支部だより

3月26日(水)

第20回関西支部長杯ゴルフコンペ

(一) 61年度予算

(11月2日'85 奈良国際 G. C. 参加者12名)

61年度予算について審議した。

(二) 大会の期日

次の理事会で決定することとした。

第2回の取切戦を兼ねた今回はノベルティ、山川社長
の肝入りで、名門奈良国際 G. C. で行いました。

(三) 東京外郵便協賛会第18回総会

最近進境著しい畑氏の、両手に花の、ぶっちぎり優勝
でした。4月16日(水)に東京郵政局ビルにおいて開催されること
が報告された。

(四) その他。

Net Hdcp

4月10日(水)

優勝 畑 雅弘(厚生社) 75 25

(一) 3月分および60年度収支計算・予算対比表

2位 山川芳史(ノベルティ) 83 21

松井幸雄氏(丸善)による報告を承認した。

3位 中村光伸(ブックマン) 86 18

(二) 総会関係

D.C. 賞 畑、前田敏雄(ブックマン)

61年度予算案に、一般会計、特別会計、臨時会計の決
算案、財産目録、什器備品目録を承認決定し、集計の合
理化・能率化のため投票用紙を改定することとし、その
案を承認し、決定した。期日は5月26日(月)と決定した。

N.P. 賞 森 吉彦(洛陽)

第21回(3月15日'86 大津 C.C. 参加者9名)

(三) Directory

Net Hdcp

1986年版 JBIA Directory は4月25日頃発行予定であ
ることが報告された。

優勝 中村光伸(ブックマン) 78 18

(四) 懇親旅行

2位 畑 雅弘(厚生社) 80 20

61年度の懇親旅行は6月6日(金)、7日の両日三河湾西
浦温泉でおこなうことが報告された。

3位 松永泰吉(北尾) 81 6

(五) その他。

D.C. 賞 前田敏雄(ブックマン)

N.P. 賞 畑、松永

(関西支部、HM生)

理事会報告……………	1
関西支部だより	
関西支部長杯ゴルフコンペ……………	1
文化厚生委員会だより	
72会ゴルフコンペ……………	2

第15回麻雀大会……………	2
書籍展示会のおしらせ……………	2
洋書輸入協会史(8)……………	3
Book Review No.114 ……………	5
よこめし・たてめし(1)……………	6

来日外人名簿……………	7
総代理店ご案内……………	7
広告……………	8

72会 第41回ゴルフコンペ 3月29日(土)

前日の雨で天候の気になる当日の空模様でしたが、メンバーの皆様の心掛けが良かったと思います。3月としては、心地の良いゴルフ日好りでした。今回も、メンバーの安田さん、石田さん、金子さん、片倉さんのご協力を得て、難しい土曜日のプレイを確保していただき有難うございました。成績の方は、努力家の相良さんが一位、二位には、またまた後藤嬢、そして最後は、がんばり屋の北村さんで締めくくり、女性中心の楽しい一日でした。プレイ後のパーティは、初参加の喜多川さん(三洋出版)の紹介も兼ねて、全員にスピーチしてもらい、和気あいあいの内に無事終了したことをここに報告致します。

なお、入賞者は下記の通りです。

順位		ゆかり	八塩	GROSS	HC	NET
1位	相良 廣明(協会顧問)	47	44	91	17	74
2位	後藤 明美(C.マクミラン)	52	45	97	23	74
3位	安田 貢(丸 善)	47	43	90	15	75
4位	中川 孝郎(三洋出版)	48	48	96	20	76
5位	喜多川信義(三洋出版)	41	47	88	11	77

BG 石田 義起(丸善OB)

DC 石田、石田、石田、喜多川

NP 大野、相良、村上、村上

第31回～40回の優勝者による優勝カップの取り切り
戦も併せて相良さんの手に渡りました。本当にお目
出とうございました。

(S.T. 記)

第15回麻雀大会

桜前線北上の報に接する4月4日、協会恒例の第15回麻雀大会が神田神保町ポニーにおいて開催された。

協会顧問の相良氏を迎え各社の雀キチ20名が集まり6時30分熱戦がくりひろげられた。45分打切り、半荘3回の協会ルールで1回戦は抽選による組合せ、2回3回戦は得点順の組合せである。なごやかな雰囲気の中にも各位真剣な面持でゲームに熱中する。方々から「満貫」の景気の良い声が飛び出す。3回戦では①卓に得点の多い

4人が集まった。日ソ図書の和田氏、大洋交易の和田氏、洋販の柴山(兄)氏、洋販の柴山(弟)氏の和田 VS 柴山の対戦となる。ツキで一枚上の柴山(兄)の優勝で幕を閉じた。

優勝 柴山(兄)——洋販

準優勝 鶴——東亜ブック

3位 和田——日ソ図書

4位 尼子——紀伊國屋

5位 柴山(弟)——洋販

BB 相良——協会顧問

大会終了後、武田文化厚生委員長の挨拶で賞品授与があり、その後パーティが開かれた。いつもながら幹事としてご尽力いただく村山(ゲーテ) 本田(白水社) 両氏に感謝の意を表したい。

書籍展示会のおしらせ

第18回シンガポール書籍祭・書籍展示会

1986年9月6日～14日

The 18th Singapore Festival of Books and Book Fair
World Trade Center, Singapore

ブリティッシュ カウンシルは、フランクフルト書籍
展示会でスタンドを設け、下記のサービスを致します。

記

期 間：昭和61年10月1～6日

場 所：フランクフルト書籍展示会会場

ブリティッシュ カウンシル

スタンド4.2Q901

サービス：・英国出版社約500社の新刊書約4,500点を34
の主題にわけて展示し、そのカタログの無
料配布

・教育用ソフトのデモンストレーション並び
に英国教育用ソフト出版社リストの無料配
布

・書誌、その他図書に関するインフォメー
ション サービス

・ブリティッシュ ライブラリー BLAISE
—LINEの書誌検索サービス

・ブリティッシュ ライブラリー CD ROM
によるデータベース サービスのデモン
ストレーション

洋書輸入協会史(8)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

10. 鉱工品貿易公団の設置と、海外出版物輸入協会の解散、閉鎖機関への指定、会名変更などについて

10・1 貿易公団の設置準備

昭和22年2月24日の新聞に、貿易公庁というものの設置の案が掲載されたため、田中・小沢の両氏にて貿易庁に皆川事務官を訪ね質問した所、次のような説明であった。

この案は、「貿易国営の能率増進と、私的団体の独占排除の狙いから起った問題で、GHQの意向に基づく。即ち国営貿易である以上民間団体の代行機関は不可であり、従来の代行機関の公認は之を取り消すことになる。」そして、「近く代行機関代表者を招集し、取り消しについて了解を求めることとなろう」との説明があった。

貿易公庁案は、そのうちに貿易公団という名称に決った。3月17日の商工省発表における貿易公団法案要綱によれば、この公団は経済安定本部総務長官の定める輸出入に関する基本的な政策及び計画に基づき、主務大臣の定める輸出入計画及び手続きに従い、輸出入に関する業務を行うことを目的とする法人である。その基本金は全額政府出資であり、その種類は、鉱工品貿易公団、繊維貿易公団、食糧貿易公団、原材料貿易公団の四つである。

そして従来の輸出入取扱機関で命令で定められたものは、貿易公団成立と共に解散させられることとなる。

このようにして次第に明らかになってきたその輪郭は、

- (1) 出版物の貿易は鉱工品貿易公団雑品部が担当する。
 - (2) 公団は輸入品の引き取り、保管・運送及び業者への引き渡しを行う。
 - (3) 海外への発注は従来通り貿易庁からGHQへ申請する。
 - (4) 海外出版物輸入協会は、希望書籍の注文の取りまとめ、貿易庁への輸入申請、公団より引き渡された現品の配給を行う。
- 即ち、昭和21年8月に承認された海外出版物輸入協会

の輸入代行機関としての性格は、すべて貿易公団に肩替りされ(つまり取り上げられ)、その上で公団は実務的な業務面を海外出版物輸入業者にやって貰い、その活動を援助し促進させる方向に公団の機能を発揮するというものである。

このような思いがけない方向へ方向づけが固まってく中で、協会は昭和21年8月21日付で貿易庁との間に交わした契約書(8・1項参照)の有効期限(昭和22年3月31日まで)を、貿易公団業務開始の日まで延長する旨の覚書を5月中旬に貿易庁と交換している。

10・2 鉱工品貿易公団の設置と輸出入取扱機関の解散及び引き継ぎ(公式通達)

昭和22年5月27日付で、貿易庁長官永井幸太郎より、各輸出入取扱機関代表者宛に「輸出入取扱機関の解散に関する件」という下記の通達があった。

記

貴協会(この場合は海外出版物輸入協会のこと)は、貿易公団法第24条第1項の団体に指定される予定である。

過般来打ち合わせ致しておいた通り、貿易公団設立後は、従前の取扱機関は実質的にその存在理由を失うことになり、関係公団(当協会の場合は鉱工品貿易公団)業務開始と同時に、貿易公団法第32条第1項の規定により当然法定解散となるにつき、なるべくその期日到来を条件とする任意解散の手続きをとるを適当と思われるので、右準備を進められたく、念のため通知する。

参考：各貿易公団業務開始時期

鉱工品貿易公団	6月1日
繊維貿易公団	6月15日
食糧貿易公団	6月15日
原材料貿易公団	6月1日

(註) 6月3日の海輸第12号によれば、鉱工品貿易公団の設置は6月15日発足に変更されたとあるが、実際の発足は更に遅れた模様。

鉱工品貿易公団の中の出版物の担当は雑品部第四課となったが、出版物の輸出については日配より2人を供出、

輸入については当然不可能との見通しで実務は無いと思われるとのこと。もし必要となれば協会より囑託の形で出して貰えないか検討ありたいとのこと。いかにも戦後の混乱期を象徴するかのような話である。

10・3 協会存続の可否検討、解散、再発足

以上の状況に基づき、海外出版物輸入協会としては、一応の措置として、5月10日の定時総会の第3号議題に、「貿易公団設置により貿易庁代行事務引き渡し後において当協会存続可否協議の件、並に之に附随する件」を追加し、討議を行った。

討議の結果は、「貿易公団法に基づいて四公団が設置され、本協会の代行実務を引き渡した後においても、輸入申請は貿易庁によってなされる以上、従来通り資料を集めて提出する必要がある。また同業者の親睦の機関としても存続の必要がある。」として、存続に決定した。

この決定により当協会は次の通知を出している。

記

海輸第10号 昭和22年5月24日

貿易庁の代行事務引渡に関する件

豫て懸案の貿易公団法に基く四公団の設置に依り、貿易庁の代行機関としての本協会は、今回貿易庁よりの示達に従ひ、本月廿一日附を以て解散し、本協会の右代行事務は、鉱工品貿易公団へ引渡します。

就ては去る五月十日、第二回定時総会の決議に基く任意の団体としての海外出版物輸入協会は、六月一日より発足し、新定款は同日より施行されることとなりますから御承知下さい。(原文のまま。以下略)

以上の経緯により、海外出版物輸入協会は昭和22年5月31日付をもって解散し、6月1日より新たに任意団体として発足することとなった。これに伴う定款の廃止、新規約の作製については、別項に記載することとする。

10・4 閉鎖機関への指定

5月末までは、代行機関としての当協会は解散ということで進行してきたが、6月に入ると情勢が変わった。そして7月2日に後記する閉鎖機関整理委員会に呼出され、田中氏出頭、昭和22年7月1日付で当協会が閉鎖機関に指定された旨が示達された。

閉鎖機関は全貿易業界に及び、業種によっては動産、不動産を所有し、貿易手形を発行している所などがあるため、千代田区丸ノ内1丁目2、台銀ビル内に閉鎖機関整理委員会が設置された。

しかし当協会は、丸善内に設置され、協会としての専従員は居らず、また財産なども全くなかったため、閉鎖に伴う諸事務処理は少なかった。また代行機関としての業務を鉱工品貿易公団に引き継ぐに際しても、海外出版物輸入の実績ゼロのため、これも簡単に終了するはずであったが、実際には提出書類が多く、数ヶ月にわたって事後処理事務が続くことになった。

10・5 海外出版物輸入同業会に名称復帰

一旦解散することになった当協会が、任意団体として再発足するに当り、同一名称として良いものかどうか、同問題の担当理事としての教文館三品氏（現在の三品書店代表者の三品要次氏）が貿易庁と折衝を重ねた。

協会側としては、会名存続を強く要望しつつも、代案としては一応「海外出版物輸入倶楽部」の名称を用意した。

所が7月に入ってから、貿易庁の内田事務官より三品氏へ、協会の名称を変更するようにとの要望があった。理由は、7月1日に当協会が閉鎖機関に指定されたため、変更の必要があるとのこと。

協会としては、6月1日より同一名称の任意団体として発足済であったため、今暫く様子を見ることとし、更に閉鎖機関整理委員会側とも交渉を重ねたが、ついに9月10日の理事会において、名称を変更することになった。そのため9月23日に臨時総会を開き、満場一致の承認を得て、「海外出版物輸入同業会」と名称変更、実際には以前の名称へと復帰し、6月1日にさかのぼって定款を改正することとなった。

英文名は「Book Importers Association」と変更した。

10・6 閉鎖機関問題その後

協会（当時）としては、当協会が閉鎖機関として指名せられたことに疑問を抱き、9月4日には小沢・田辺氏にて閉鎖機関整理委員会に石川事務官を訪問、日配などの他の現存実例を挙げて指定解消を陳情した。実際問題としては、当協会は貿易庁の代行機関としての輸入実務は何一つ行わなかったためである。

更に貿易庁の内田事務官を経由して終戦連絡事務所に

まであっせんを依頼したが、効を奏しなかった。

一方で12月22日に、総理府より協会時代の独占禁止法関連についての照会があり、協会時代の定款及び現在のものを渡して説明を行うなどのことがあった。もともと貿易公団の設置に関することそのものが、10・1項にあるように私的団体の独占排除の狙いから起った問題であるため、当然の照会であったであろう。しかし政府の指

示で貿易庁の代行機関となり、更に政府の指示で閉鎖機関に指定され、更に独占法禁止関連の照会があるとは、民間の立場にある協会としては、何とも釈然としかねることであった。

(註) 昭和22年4月14日付で、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」が公布されている。

(続く)

Book Review No.114

「ゴランツ書店——ある出版社の物語 1928—1978」

シーラ・ホッジズ 奥山康治・三沢佳子訳 晶文社 1985 316、xiv pp. ¥2,800

この本は、ゴランツ書店に1936年に入社し、1950年退社した後も社外で協力してきた著者が、同書店内に残されている古い書類や記録、作家の手紙などを参照し、多くの関係者に問合せて50年間にわたるゴランツ書店の歴史を書いたものである。原題は、Gollancz: The story of a publishing house で、1978年の出版である。動乱の30年代のイギリス社会を知る上にも興味深いし、また英文学研究のための基礎資料ともなりうるが、われわれにとってもイギリスの戦前戦後の出版事情、その宣伝等々を知る上で、またとない参考資料といえよう。

ヴィクター・ゴランツは強烈な個性と固い信念をもった知識人であり、出版人であった。派手な広告、一目でゴランツの本とわかる装丁、デザイン、低価格による大量販売方式、社会・政治運動と結合した廉価本の普及などで、出版界に大きな波紋を投げかけた。彼は1893年ロンドンで生まれ、オックスフォード大学卒。パブリック・スクールの教師となったが、校長と衝突して解雇され、1920年出版社のベン社にはいり、1927年退社して、ヴィクター・ゴランツ書店を設立した。

政治的出版事業は彼の自社創業の最も大きな動機のひとつであったが、「政治関係書の危険の多い競争の場に深入りする前に、社が財政的に確固たる基盤の上に立たなければならないことを知っていた。」1930年代半ばには、春と秋に2回作られる出版目録は172ページに及ぶ大部なものになっていた。(1986年のコンプリート・リストは55ページ) の中には、エリザベス・ボウエン(「北へ」)、ジョイス・ケアリー(「アフリカの

魔女」など)、I. カンプトン＝バーネット(「目上の人々」など)、A. J. クローニン(「城砦」など)、ダフニ・ドウ・モーリエイ(「レベッカ」など)、ジョージ・オーウェル(「動物農場」など)などの名が見られる。

ゴランツ書店の名を最も高からしめたのは「レフト・ブック・クラブ」(1936年5月—1948年10月)である。「民主主義政治の連帯による戦争の防止とファシズムへの勝利」を旗印にして発足したこのクラブは最盛期には約5万の会員をもち、各地で大小さまざまな集会や行事をもった。30年代後半のイギリスの社会主義運動をリードした、と言っても過言ではないだろう、と言われている。「完全雇用」、「医療社会化制度」「都市計画」、「社会的平等」などの言葉は、このクラブの活動を通じて広く知られるようになったのである。

1935年ゴランツ書店は政治的理由からドイツとの取引をいっさい断ち、その後日本に対しても中国侵略を理由に同じ処置がとられた。この時「日本の卸売業者」が多大の困難をひきおこし、同書店に取引を懇請して出した手紙が引用されている(p.168—169)のは興味深い。

戦後「面白い本が流れるように大西洋の向こうから入りはじめ、やがてヴィクターは……社に活力を回復するために……買いつけのための訪米を開始した。」こうして1951年までには出版総数の半ばがアメリカの本によって占められるようになった。現在の英米出版界の事情、関係を見る上からもこの「VIII アメリカからの侵略」はおもしろい。

ヴィクター・ゴランツは1967年に亡くなり、娘のリーヴィア・ゴランツが後を継いでいる。(M. I.)

よこめし・たてめし (1)

「たべもの」のことを書いたものが、昨今はやたらと眼につく。「一億総グルメ」などという、飢餓の時代を体験した、我々戦中派には、少々抵抗のある言葉が氾濫している世の中である。

されば、会報にも、世の流行にならって、「たべもの」の話のコラムでも作ったらどうだろう、という話が、居酒屋での企画会議でもちあがった。しかし、単なるグルメ談議などは面白くない。できれば、業界の若い人等が、外国の出版関係の人等と、食事をともにする時、少しは参考になるような、我々の体験を綴って見たらどうだろうか、ということになった。勿論、我々が外国に行った時の「よこめし」談議も出てくるに違いない。

しかし、あまり前口上が長くて、初めたと思ったら、二、三回で立消え、というようなことにならぬよう、会報委員の中の「喰いしんぼ」数人が、適当に分担することにする。もし、それが好評を博して、投稿でももらえるようになれば、企画発案者として望外の喜び

と云えよう。

—— ○ ——

この頃は、外国からのお客様も、大分日本ズレしてきて、スキヤキ、テンプラはもう飽きた、というような連中が結構多い。そのような彼等と遇するに、まず、二つの道が考えられる。即ち、うんと高級な（或は高級そうに見える）料理屋に案内して、幾品もの皿、小鉢が次々と出る日本料理を供するか、又は我々、平均的サラリーマンが愛用するところの、小料理屋、居酒屋のたぐいにひっぱりこむかである。そして、彼等、遠来の客の殆どは、後者を、より喜ぶようである。

しかし、多少の商談もしたいということになると、あまり喧騒を極めるところは避けねばなるまい。「出来ますもの」の品数も豊富で、一寸しゃれていて、外人客を特別な眼で見ることをしない、というような店を、日頃から心がけて探しておくことが、いざ、という時に役立つことになる。

(つづく) (K. S.)

JBIA DIRECTORY 1986

(洋書輸入協会ダイレクトリー 1986年版)

25.8×18.2cm 316頁

一般価格 4,000円 (送料共)

会員価格 2,000円 (")

第18回 洋書まつり'86

洋書輸入協会主催合同セール

と き 昭和61年10月10日(金)・11日(土)

10:00~18:00

ところ 東京古書会館

千代田区神田小川町3-22

電話 03-293-0161

(国電・お茶の水駅、都営地下鉄新宿線・神保町駅または小川町駅下車)

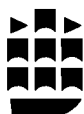
来 日 外 人 名 簿

- 2 月中旬 Mr. A. Soar, Chairman
Macmillan Publishers Ltd., London
- 2 月下旬 Mr. J. Osborne, Group Sales Director,
Mr. P. Sheperd, Sales & Marketing
Director,
Longman Group Ltd., Harlow, Essex
- " Mr. I. Elsmark, Manager of Sales,
I. L. O., Geneva
- " Dr. G Jurgen Hogrefe, Jr.
Hans Huber AG., Bern
- " Mr. Rakow, Managing Director,
Walter de Gruyter, Berlin
- 3 月上旬 Mr. H. Johnson, President,
JAI Press USA., Connecticut
- " Mr. D. Apprish, Export Manager,
Macdonald & Co., Ltd., London
- " Mr. E. Baper, Export Sales Manager,
David Charles Ltd., Devon
- " Mr. E. Eady, Vice President,
Crown Publishers Inc., New York
- " Mr. W. Iwasa, Managing Director,
East-West Export Books, Hawaii
- 3 月中旬 Mr. H. W. Gstalder, President,
Kraus-Thompson Organization Ltd.,
New York
- " Mr. Winkleman, Managing Director,
Times Book Ltd., London
- " Mr. F. Urbanowski, Director,
MIT Press, Massachusetts
- 3 月下旬 Mr. J. Benjamins, M. D., Benjamins,
Amsterdam
- " Mr. M. Manson, Sales Director,
Wolf Medical, London
- " Mr. R. Hyde, Director, Little Brown,
Boston
- " Mr. L. Koch, Regional Manager,
Wiley, New York

- 4 月上旬 Mr. L. Briston, Marketing Manager,
McGraw-Hill, New York
- " Mr. Llewellyn, Manager, Wiley, London
- " Mr. T. Horsler, Director,
Gower Medical, London
- 4 月中旬 Mr. Machesney, Manager, Macmillan,
London
- " Mr. A. Miles, M. D., ABP, London
- " Mr. Traskel, Deputy M. D., IDC
Zug Switzerland

総代理店ご案内

- 丸 善(株) ☎(03)272-7211
- Haworth Press, (USA)All periodicals
- Longman Group Ltd., (GBR)All periodicals
- Churchill Livingstone Inc., (Medical Division
of Longman Group Ltd.)All Periodicals
(一部対象外あり、詳細についてはお問い合わせ下さい。)
- ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社
☎(03)291-4541
- Institute for International Economics
(USA)Stockist
- JAI Press (USA)All books
- Northern Illinois University Press
(USA)All books
- Scolar Press (UK)All books
- ALA World Encyclopedia of Library and
Information Services, 2nd edition 6 月刊行
(American Library Association)予価 42,900
- ALA Yearbook of Library and Information
Services. 1986 edition 6 月刊行
(American Library Association)予価 18,200



英国ロングマン・グループ

'86年創刊誌のご案内

応用有機金属化学

Applied Organometallic Chemistry

General Editor: **Dr. Peter J. Craig, Leicester, UK**

発行回数：隔月刊 年間購読料：¥48,000

有機金属分野の応用研究に関する論文，速報性を要する研究成果についての短信やレビュー論文を収録します。

●下記のトピックスをカバーします

有機金属を利用した触媒作用および合成／有機金属の電子工学的応用と分子エレクトロニクス／プラスチック，食品等における有機金属の拡散研究／有機金属と化学療法／有機金属とセラミックス 他

Longman 

インターベンショナル・ラジオロジー

Journal of Interventional Radiology

International Editorial Committee

Chairman: **David J. Allison, London, UK**

Joint Editors: **Gordon McLean, Philadelphia, USA**

Robert A. Wilkins, London, UK

発行回数：季刊 年間購読料：¥24,000

インターベンショナル・ラジオロジーの実践的側面に重点を置き，特に技術と機器に関する発展状況を伝える原著論文を迅速に発表します。

放射線学者と関連の臨床医の方々にご購読をお勧めいたします。

●下記のトピックスをカバーします

イメージング・ガイダンスによるインターベンション手法／インターベンショナル・ラジオロジーで使用される機器類／関連のイメージング技術／インターベンショナル・ラジオロジーの構成・管理の側面 他

Churchill Livingstone 

★弊社は上記以外の **Longman Group Ltd.** (含 **Churchill Livingstone**) 刊行誌につきましても，販売総代理店としてサービスいたしております。

・同グループ刊行の雑誌はすべて **ASP** (英国航空貨物サービス) にて送本されます。

・ご注文，ご照会是最寄りの書店または弊社本・支店販売部(課)外国雑誌担当までお申し付けください。



日本総代理店

本社・日本橋店：〔〒103〕東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・北千住・土浦)・新潟・水戸・八王子・甲府・松本・札幌・旭川・仙台・弘前・秋田・盛岡・山形・郡山・筑波・横浜・名古屋・静岡・岐阜・三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡(店屋町・天神)・長崎・鹿児島・沖縄・ニューヨーク・ロンドン・シンガポール

昭和61年5月 通巻第229号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 ☎271-6901

☎530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第1山中ビル ☎371-5329